

## ATLおよびHTLV-Iに関する文献の疫学情報について

橋本修二\*, 福富和夫\*, 母里啓子\*\*, 曾田研二\*\*\*

**要約** ATLおよびHTLV-Iに関する文献の疫学情報を整理・データベース化するために、77文献を収集、疫学情報を含む41文献を情報別に分類した。今後、その継続をはかるとともに、それを利用して疫学モデルの作成・モデルに基づく推計を行なう予定である。

**見出し語**：文献、疫学情報、データベース

**研究方法** 対象とする文献は、ATLおよびHTLV-Iに関するもので、主として雑誌ごとに収集された77文献である。その中から、疫学情報を含むものを選別し、その疫学情報により感染率(国内・国外)、感染経路(母児・それ以外)、患者の情報(発病率・患者特性)、リスクファクターに分類した。なお、文献は該当するすべての分類に含め、重複して数えた。収集した疫学情報の内容を示すために、その例と

して性・年齢階級別感染率(抗体保有率)を取り上げた。

**結果** 疫学情報を含む文献は、77文献中、41文献(53%)であった。疫学情報別にみると、感染率18(国内10、国外8)、感染経路11(母児8、それ以外3)、患者の情報12(発病率5、患者特性7)、リスクファクター7であった。性・年齢階級別感染率を新潟県、対馬、五島列島を対象地域とした3文献でみると、その水準は対象地域により4.0、23.4、29.6%と著しく異なる。一方、いずれの地域でも40~49歳から70歳以上で3.5~6.6%、22.8~28.8%、20.0~37.4%と上昇する傾向があり、その上昇は女でより大きいようである。なお、いずれの文献の検査もIF法(indirect immunofluorescence method)である。

---

\* 国立公衆衛生院衛生統計学部 (Dep. of Public Health Statistics, The Institute of Public Health) \*\* 同、疫学部 (Dep. of Epidemiology, The Institute of Public Health) \*\*\* 横浜市立大学医学部公衆衛生学 (Dep. of Public Health, Yokohama City Univ. School of Medicine)

考察 現在、文献の収集が十分でなく、今後より完全にする必要があると思われる。その不十分性のために、疫学情報として取り上げた性・年齢階級別感染率についても、現時点ではまとめる段階には至っていない。しかし、疫学情報間の比較性を考慮しつつ、疫学情報をまとめていくことと、不足している情報を明確にしていくことが重要と考えられる。特に、A T L およ

びH T L V - I に関する疫学モデルの作成およびそのモデルに基づく推計を行なうためには、整理された疫学情報が不可欠であろう。今後、疫学モデルを用いた推計を行なう予定である。

文献収集に御協力頂いた愛知県がんセンター研究所疫学部田島和雄室長に深謝します。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 ATL および HTLV-1 に関する文献の疫学情報を整理・データベース化するために、77 文献を収集、疫学情報を含む 41 文献を情報別に分類した。今後、その継続をはかるとともに、それを利用して疫学モデルの作成・モデルに基づく推計を行なう予定である。